

簡易楽譜の使用によるピアノ初心者の学生の学習意欲向上

蓑毛 明代¹⁾ 飯田利江子¹⁾

Enhancement of Piano-beginner Student's Motivation for Learning by using Simplified Music Score

Akiyo Minomo Rieko Iida

Abstract

Performing song accompaniment on the piano is one of the most important skills for kindergarten teachers because singing is indispensable to the kindergarten children. However, some students in childcare training schools are complete piano beginners; it is difficult for them to master many songs kindergartens require. In order to make the students learn more songs, we used simplified music scores. As a result, we found that their motivation for learning was enhanced in addition to the number of songs they mastered increased.

Key words: Piano beginner, Simplified music score, Motivation to learn

キーワード：ピアノ初心者、簡易楽譜、学習意欲

I. はじめに

1. 保育者養成校におけるピアノ演奏教育の課題

幼稚園、保育園、認定こども園などの保育の現場における歌うことの重要性は、誰もが認めるところであり、実際、歌が盛んに用いられている。それは純粋に歌を学ぶ時間のみならず、登園時に歌う「朝のうた」、昼食時に歌う「おべんとう」、帰宅時に歌う「おかえりのうた」など多岐にわたる。中野と河野（2012）が指摘するように「子供たちは幼稚園や保育園にいる間、まさに『音楽と共にある』と言ってよい」状態である。国の教育制度においても歌うことの重要性は認められており、学校教育法第 23 条（文部科学省，2017a）では、幼稚園における教育の目標に「音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな

感性と表現力の芽生えを養うこと」と謳われている。また、幼稚園教育要領（文部科学省，2017b）や保育所保育指針（厚生労働省，2017）の指導事項には「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう」ことが明記されている。

幼稚園教諭・保育士（以下、保育者とする）の養成校である育英短期大学保育学科（以下、本学）においても、当然のことながら保育の現場での歌うことの重要性を踏まえ、子どもたちに歌わせるための技術の習得を目的とした「ピアノの弾き歌い」の授業を行っている。林（2018）が指摘しているように、「養成校在学中には保育現場での実習が複数回あり、早い者では入学から半年後には子どもたちの前で弾き歌いの機会をもつことになる」ことから、学生たちは一日も早くピアノの弾

1) 育英短期大学非常勤講師

き歌いの技術を身につける必要に迫られている。しかしながら、入学時における学生たちのピアノ演奏技術の習熟度はまちまちで、ベートーヴェンやショパンの作品を弾けるような上級者もいれば、ピアノにほとんど接したことがない全くの初心者もいる。このように養成校にピアノ初心者が入学してくる現状は金指（2009）も指摘しており、全国の養成校における共通の問題と言えるであろう。一方で、中野と河野（2012）が幼稚園・保育園へ実施したアンケート調査からは、保育の現場において最も必要とされる音楽能力は、「平易な弾き歌いができること」であることが明らかにされている。ピアノの弾き歌いは、ピアノ経験者でもある程度の慣れがなければ難しいものであり、ましてピアノ初心者にとってピアノを弾きながらさらに歌うということは至難の業である。保育者の養成校にとって、このようなピアノ初心者にいかにして演奏技術を身につけさせることができるかは、極めて重要な課題である。

保育の現場で歌われる歌は多岐にわたる。「朝のうた」、「おべんとう」、「おかえりのうた」といった生活の歌、「ちょうちょう」、「うみ」、「とんぼのめがね」、「まつぼっくり」、「やきいもグーチーパー」、「ゆき」といった季節の歌、「お正月」、「うれしいひなまつり」、「こいのぼり」、「たなばたさま」といった行事の歌、「アンパンマンのマーチ」、「夢をかなえてドラえもん」、「ミッキーマウスマーチ」といったアニメの歌など枚挙にいとまがない。保育の現場で使用されることを想定した弾き歌いの楽譜集も多数出版されており、筆者らの手元にあるもの（小川ら，2008；小林，1975；小林，1996；全国大学音楽教育学会，2013；全日本私立幼稚園連合会，1995；ドレミ楽譜出版社編集部編，2001；早川，1992a；早川，1992b；坂東，2014；松山，1992；松山，2011）でも、85～302もの曲が収録されている。また、林（2017）の集計によると、本学で使用されていた教科書には合計約350曲の童謡、子どものうた

が掲載されており、保育の現場では多数の曲が必要とされていることがうかがえる。一方で、保育の現場では弾き歌いだけではなく、生活全般の世話から、あそび・造形の見守り、保護者への子育て支援、保育日誌や連絡帳の作成など、多くの重要な仕事がある。養成校の学生たちが卒業し、忙しい実践の現場に出たときに、ピアノの弾き歌いの練習時間を十分に確保することは、多くの場合困難と言える。したがって、林（2017）が指摘しているように、保育者を目指す学生たちは1曲でも多くの弾き歌いのレパートリーを習得することが重要である。

2. 目的

上述のように、保育の現場ではピアノの弾き歌いが重要視され、多くの曲を習得していることが望まれているが、ピアノ初心者には難しい課題である。ピアノ初心者により多くの曲を習得させる方法の一つに、易しく編曲した楽譜（以下、簡易楽譜）の使用が挙げられる。易しい楽譜であれば曲の習得にかかる時間が短くなるため、当然の結果として多くの曲を身につけることができるはずである。一方で、そのことによる学生たちの学習意識の変化についてはあまり注目されていない。そこで本稿では、保育者を目指すピアノ初心者の学生たちに焦点を当て、簡易楽譜の使用による習得曲数の増加と、それに伴う学生たちの意識の変化について調査することを目的とした。

II. 方 法

1. 調査対象

2014（平成26）年度から2016（平成28）年度にかけて行われた、1年生前期のピアノ弾き歌いの授業「演奏法Ⅰ」（授業数：15回）の受講生の中から、ピアノ初心者を対象とした。本学では、ピアノ弾き歌いの授業をより有効かつスムーズに進めるためのグループ分けの方法が色々と検討

されてきた。それらの方法は、ピアノの経験は問わずに名簿順で分けるものから、実際に子どもの歌を弾いてもらいその成績で振り分けるもの、などである。本研究の時点では、入学時に楽器の習得経験に関する事前アンケート（①どんな楽器を何年くらい習っていたか（学校の部活動も含む）、②どんなテキストを使っていたか（好きだった曲なども）、③これからの授業に対する目標、期待、不安なことなどの感想）を行い、その結果を総合的に判断してグループに分ける方法を採用していた。各クラス47～48名は、アンケートの結果からそれぞれ6～9名の6つのグループ、Aグループ（上級）～Fグループ（初級）に振り分けられ、授業が進められた。調査対象としたのはピアノ初心者で構成されるEないしFグループの学生で、これらの中から筆者らが担当した各年度2クラス、計6グループの46名である。対象学生の内訳は、2014年度：16名（Eグループ9名、Fグループ7名）、2015年度：15名（Fグループ7名、Eグループ8名）、2016年度：15名（Eグループ8名、Fグループ7名）である。

2. 教材

対象とした授業では、教材として『幼児の四季「春・夏の歌」』（早川，1992a）、『幼児の四季

「秋・冬の歌」』（早川，1992b）を使用していた。これらの楽譜は比較的平易に編曲されたものであるが、それでもピアノ初心者たちにとっては難易度が高い。2014年度には教材をそのまま使用したが、2015年度と2016年度には一部の曲についてピアノ初心者でも弾きやすいように簡易楽譜を用いた。ここで使用した簡易楽譜とは、次の①～③のような簡易化を施したものである。

①音符の数を減らす：ピアノ初心者には指を速く動かして多数の音を出したり、同時に複数の音を出したりすることが難しいため、音符の数を減らした。ほとんどの曲で右手パートはメロディーのみであったため、その場合は右手パートの簡易化は施さなかった。まれに右手パートにも重音を含むものがあり、その場合はメロディーのみを残し、それ以外の音は削除した。左手の伴奏に関しては、短く刻む音を長い音にする、音の跳躍を減らす、同時に出す音の数を減らすことで音符の数を減らし簡易化を図った。左手の簡易化の例を図1に示す。簡易化には何通りもの可能性が考えられる。初心者の学生たちには極めて簡易にしたもの、すなわち図1の「簡易化B」のような和声の主音を長く伸ばすものから始めさせた。そして、学生の上達に応じて少しずつ難易度の高い図1の「簡易化A」のような楽譜を課していった。「簡易

	元の楽譜	簡易化 A	簡易化 B
譜例 1			
譜例 2			
譜例 3			
譜例 4			
譜例 5			

図1 楽譜簡易化の例

化 A] について、

- ・ 譜例 1 では和音はそのままにして、短く刻む音を長い音にすることで音符の数を減らした。
- ・ 譜例 2 ではリズムはそのまま、音の跳躍をなくし、さらに同時に鳴らす音を一つにした。
- ・ 譜例 3 では音の跳躍をなくして、音符の数を減らしつつも、リズムには変化をつけた。
- ・ 譜例 4 では分散和音をなくし、リズムを易しくした。
- ・ 譜例 5 では、二つ目の分散和音を主音のみにすることで、6/8 拍子のリズムを残しつつ、音符を減らした。

同じような簡易化ばかりでは曲が単調になり、演奏技術の上達を鈍らせる。上達が認められた学生には、何通りかの簡易化を組み合わせ、曲が単調にならないように工夫したものを課した。

②前奏の省略：前奏で歌の箇所と異なるメロディーが用いられるものがある。より負担を低減するために、曲によっては前奏を割愛したり、オリジナルの前奏の代わりに歌の箇所の一部を転用したりした。

③移調：ピアノ初心者には黒鍵の演奏が難しい。そこで、調性にシャープ（＃）やフラット（♭）が多く黒鍵の使用頻度が高い楽譜を、＃や♭が少

なく黒鍵の使用頻度が低いものを書き替えた。例えば、「時計の歌」、「あめふりくまのこ」や「カレンダーマーチ」は二長調（＃二つ）から八長調（＃♭なし）に、「うれしいひなまつり」はハ短調（♭三つ）からロ短調（＃二つ）またはイ短調（＃♭なし）に移調した。

3. 比較方法

本学でもファカルティ・ディベロップメント（Faculty Development, FD）の一環として、学生による教員への授業評価アンケートが行われており、この集計結果を用いて学生たちの意識の変化を確認した。アンケートの設問は年度により若干異なっていたので、調査対象の3年度分で変化のなかった10項目を選択した。設問の内容は表1のとおりである。各設問は点数化され、2014年度と2015年度は4点満点（大変そう思う：4点、ややそう思う：3点、あまりそう思わない：2点、全くそう思わない：1点）で、2016年度は5点満点（大変そう思う：5点、ややそう思う：4点、どちらとも言えない：3点、あまりそう思わない：2点、全くそう思わない：1点）で評価された。また、自由記述についても考察の対象とした。

表1 アンケートの質問内容

番号	内 容
1	あなたはこの授業に意欲的に取り組んだ
2	あなた自身の授業態度は良かった
3	あなたはこの授業の内容をよく理解できた
4	この授業は講義内容（シラバス）に沿って行われていた
5	先生のこの授業に対する熱心さが感じられた
6	先生の説明はわかりやすかった
7	学生からの質問に対する先生の対応は適切だった
8	先生は教材（テキスト、参考資料、板書、視聴覚教材など）を適切に使っていた
9	この授業で新しい知識、考え方、技能などが習得できた
10	この授業は総合的に見て良い授業だった

Ⅲ. 結果と考察

1. 習得曲数の変化

対象とした学生たちの年度ごとの習得曲数を図2に示す。一人当たりの習得曲数の平均値は、2014年度で9.1曲（最小：3曲～最大：14曲）、2015年度で27.1曲（18～37曲）、2016年度で36.1曲（29～43曲）となった。これにより、習得曲数が年度の経過とともに増加したことが確認できた。習得曲数はとりわけ2014年度から2015年度の間で劇的に増加しており、平均値でおよそ3倍になった。これは、2015年度から取り入れた簡易楽譜の使用によるものと考えて間違いないであろう。簡易楽譜で曲が易しくなり1曲にかかる労力が減ったため、習得できた曲数が増えたと考えられる。また、2015年度と2016年度を比較すると、同様の簡易楽譜を使用していたにも関わらず、習得曲数は平均値でおよそ3割増加した。こ

の増加は、指導する側が経験を積んだことで、簡易楽譜をより効果的に使えるようになったことが一因として考えられる。

2. アンケートの結果

2-1. 選択項目について

FDアンケートのうち選択項目である設問1～10の集計結果を表2に示す。アンケートの評価の満点は2014年度および2015年度は4点、2016年度は5点であったため、2016年度の結果には0.8を乗じて4点満点に換算した。各年度の得点は、2014年度が3.6～4.0点（合計38.8点）、2015年度が3.3～3.9点（合計37.4点）、2016年度が3.8～4.0点（合計39.4点）となった。いずれの項目においても年度間で明確な差はなく、選択形式のアンケートの設問からは簡易楽譜の使用による意識の変化を確認することはできなかった。

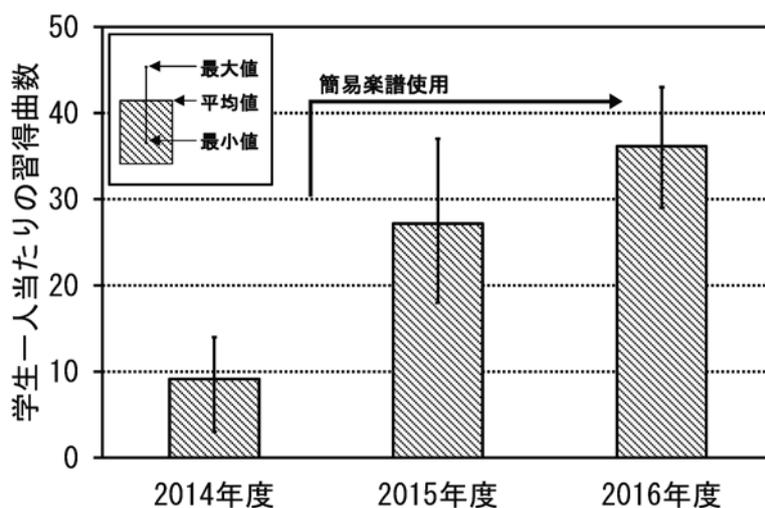


図2 学生一人当たりの習得曲数

表2 アンケート（選択項目）の集計結果（平均点、4点満点）

年度	回答数	設問番号※									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2014	16	3.8	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9
2015	15	3.7	3.3	3.6	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8
2016※※	15	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0

※設問の内容は表1参照。

※※2016年度は5点満点なので0.8を乗じて4点満点に換算した。

2-2. 自由記述について

表3にFDアンケートにおける自由記述の結果を示す。表中の記述内容は漢字、句読点、記号等

含め、原文のまま記載し、通し番号（#1～#25）を付した。自由記述欄の記入人数は、2014年度で10名（対象とした学生の63%）、2015年度で

表3 アンケート（自由記述）の集計結果

年度 #	自由記述*	記述の分類	
		授業の感想	具体的成果
2014	1 私も先生大好きです。ありがとうございました！	○	
	2 先生ともたのしく授業うけられてとてもたのしかったです。	○	
	3 先生がすごく熱心で、「もっと頑張ろう！」って毎回思えてとても頑張れる授業だった。だからこれからももっともっと頑張ろうと思う!!	○	○
	4 とてもためになりました。		○
	5 2学期も先生を変えないで下さい。	○	
	6 グループも先生もかえないでください。	○	
	7 クラスそのままがいいです。変えないでください。（先生も!!!!）	○	
	8 グループも先生もかえないでください。	○	
	9 クラスがそのままがいいです!!!先生もそのままがいいです!!!	○	
	10 クラスがえしたくないです。	○	
2015	11 初めてピアノの授業を受けてみて、楽しかったりむずかしかったりしました。それでも先生の教え方もおもしろく段々とひけるようになるのがうれしかったです。また先生に教えてもらいたいです。	○	○
	12 面白く分かりやすい授業でした。おかげで全く弾けなかったのに何曲も弾けるようになりました。ありがとうございました。	○	○
	13 ピアノを重点的にできてよかったです。	○	
	14 先生の教え方がわかりやすかった。	○	
	15 とてもわかりやすくて、ピアノが好きになりました。	○	○
	16 たくさんの曲が弾けるようになって良かったです。		○
2016	17 とても丁寧に教えてくれたから分かりやすかった。	○	
	18 最初の時よりピアノが弾けるようになって良かったです。		○
	19 まったく弾けなかったピアノが自分が想像していた数よりはるかに弾けるようになってうれしかった。知らない曲など先生も一緒に弾いてくれてすごくうれしかった。最初は弾けなくてやさしかったけど今はすごく楽しく弾けるようになった。	○	○
	20 初心者ではじめて大変だったけど少しずつひけるようになって良かった。努力することの大切さを学びました。弾ける楽しさを感じられるようになりました。		○
	21 メロディーを弾くことも大事だけど、気持ちを込めて歌うことも大事なんだと思った。弾いているうちに自分でうれしくなってピアノを弾くことがとても楽しくなった。		○
	22 優しくていねいに教えてくださって良かったし、楽しかった。今まで全然やったことなかったピアノが好きになった。	○	○
	23 先生の教え方は分かりやすく、自分たちにあったやり方を教えて下さってピアノが楽しく感じました。後期は弾き歌いも頑張りたいです。とても楽しかったです。	○	○
	24 楽しく弾くことができました。後期も頑張ります。ピアノを弾くのが好きになれました。	○	○
	25 わからないところもわかるまで教えてくれたのがすごく良かったです。ピアノが嫌いでしたが、だんだんと弾けるようになったので好きになりました。	○	○

※自由記述の下線は「授業の感想」と判断した箇所、二重下線は「具体的成果」と判断した箇所。

6名(40%)、2016年度で9名(60%)であった。自由記述の中には、「グループが良かった」、「楽しかった」といった単に授業の感想を述べるものと、「ピアノを弾けるようになって良かった」、「ピアノが好きになった」など具体的成果や自らの成長に関するものに大別できたので、その集計も併せて記載した(複数回答あり)。

2014年度は、「先生好き、2学期も変わらないでほしい」(#1、5~9)や「楽しかった」(#2)、「後期もグループ変えをしないでほしい」(#6~10)など授業の感想を述べる記述がほとんど(自由記述をした10人中8人、80%)で、具体的成果に関するものは「これからもっともっと頑張ろうと思う」(#3)、「ためになった」(#4)と記述した2名のみ(20%)であった。

2015年度では、授業の感想を述べる記述は、「面白かった」(#11、12)、「楽しかった」(#11)、「教え方がよかった、分かりやすかった」(#11、12、14、15)などの5名(83%)で、具体的成果に関するものは「段々と弾けるようになるのがうれしかった」(#11)、「弾けなかったのに何曲も弾けるようになった」(#12、16)、「ピアノが好きになった」(#15)など4名(67%)となった。

2016年度では、授業の感想を述べる記述は「分かりやすかった」(#17、23)、「うれしかった、楽しかった」(#19、22、23、24)、「教え方がよかった」(#17、22、25)など6名(67%)で、具体的成果に関するものは「ピアノが弾けるようになった」(#18、19、20、25)、「弾くことが好きになった」(#19、20、21、22、24、25)、「後期も頑張りたい」(#23、24)などの8名(89%)となった。

自由記述のうち、授業の感想に関するものが占める割合は、2014、2015、2016年度でそれぞれ80%、83%、67%となり、年度間であまり大きな変化はなかった。これに対し、具体的成果に関するものが占める割合は、2014、2015、2016年度でそれぞれ20%、67%、89%であった。この割合は、2014年度から2015年度(簡易楽譜を導入)

の間で約3倍と劇的に増加し、2015年度から2016年度の間でも約3割の増加がみられた。この割合の増加は、図2に示した習得曲数の増加と同様の傾向であった。これは、簡易楽譜を使用したことによる習得曲数の増加により、学生たちが具体的成果を実感できたため、学習に最も重要な自発的意欲が引き出されたことによるものと考えられる。初心者にとって曲を習得できたことは初めての体験であり、将来実践の場で使える曲を身につけた自信が、学習意欲の向上に結びついたものと推察される。

本結果は、歩幅は狭くとも着実に前へ進んだことを実感させることが、学生の意欲向上に必要な一つの方法であることを示したものと思われる。また、2016年度には「メロディーを弾くことも大事だけど、気持ちを込めて歌うことも大事なんだと思った」(#21)といった記述が得られた。単に「弾けるようになって嬉しい、楽しい」から一歩踏み込んで、音楽表現にも目が向けられており、より深い学びに結びついたことは注目すべき点である。小澤(2009)は、「学生は、実習前オリエンテーションで知らない曲を与えられると、知らない曲というだけで不安をおぼえるようである。そのためにも、たくさんの曲に触れることが大切であり、聞いたことがある曲というだけでも準備練習する気持ちが前向きになり、練習も容易になる」と指摘している。より多くの曲に接し、現場での不安を和らげ前向きになるためにも、簡易楽譜の使用は一助になると思われる。

IV. まとめ

保育者の養成校におけるピアノ初心者の学生を対象に、簡易楽譜の使用と習得曲数の変化、およびそれに伴う意識の変化について、FDアンケートの結果をもとに考察した。その結果、簡易楽譜を導入することで習得曲数が劇的に増加し、それに伴い学生にも成長の実感が得られ、ピアノが好

きになる、学習に対して前向きになるといった意識の変化も確認することができた。小さな成果であってもそれを実感させることが意欲向上につながると思われ、ピアノの初心者の学生に対しては、簡易楽譜で指導することは有効な選択肢の一つになると思われる。

V. おわりに・今後の課題

上述のとおり、簡易楽譜を使用することでピアノ初心者の学生たちの習得曲数が増加し、それに伴い意欲が向上することを改めてデータとして確認でき、指導している筆者らも学生たちの成長に驚嘆した。学生たちに保育の現場を意識させたこと、すなわち形はともかく一曲でも多くの曲を習得させ、実践への自信を持たせたことが功を奏したと思われる。ピアノ初心者であった学生たちのわずか半年間でのこのような成長は、今後、簡易楽譜に頼らずとも通常の教材で学んでいける可能性をも感じさせた。一方、筆者らは簡易楽譜の使用を手放して推奨している訳ではない。簡易楽譜にすることで、オリジナルの譜面にある芸術性や情緒を損なう場合があることも否定できないからである。簡易楽譜ばかりを使用することで学生たちからオリジナルの魅力を知る機会を削いでしまう危惧があり、将来、学生たちがその魅力を知らずに教育に携わるのは残念なことである。また、紙屋と後藤（2008）は「良く知っている歌を簡易伴奏で2回も歌って、少し飽きてきた時にアレンジを加えた伴奏を弾き始めると、飽き飽きしていた子どもたちが途端に興味を示し始めた」と報告しており、幼児を歌に惹きつけるためには伴奏を工夫することも有効である。したがって、筆者らは、簡易楽譜の使用は、習得にどうしても時間がかかってしまう学生たちが、現場で求められている弾き歌いのレパートリーを増やすための、救済措置として位置付けている。本学では2018年度以降、1学年前期に、基礎的な指の訓練をしなが

ら様々な楽譜に慣れさせ、バイエル習得程度の力を付けさせたのち、後期から弾き歌いに本格的に取り組む形式で実技授業を進めている。また、2019年度からは、練習曲の合間に現場で頻繁に歌われている曲の中から「ぶんぶんぶん」、「かえるの合唱」、「ちょうちょう」、「チューリップ」などを簡易楽譜にして習得させることで、学生たちに成長を実感させ、学習意欲を向上させるような取り組みを心がけているところである。導入して間もないが、基礎的な指の訓練をしつつ、簡易ながらもいくつかの曲を身につけさせることで、後期からの弾き歌いの習得がスムーズになっているようである。また、これと並行して、保育の現場でよく歌われている童謡110曲を選定し、これらを履修曲リスト一覧として学生たちに持たせ、習得するごとにその曲目の横にスタンプを押していくシステムも導入した。林（2017）は、このシステムの導入により、習得済みの曲と未習得の曲が一目で分かるようになり、学生たちの学習意欲も向上したことを確認している（ここで選定された110曲はその後見直され、現在では140曲となった）。しかしながら、学生たちが現場に出たときに、本学で選定した140曲で現場のすべての曲を網羅できるわけではなく、また、新曲に十分な練習時間を充てられるとは限らない。この現状を踏まえると、我々指導者は、学生たちが実際の現場に出たときに短時間で自ら曲を仕上げることができるように訓練していくことを視野に入れなければならない。筆者らは、そのためには、ピアノの演奏技術の向上もさることながら、自ら楽譜を簡易に編曲する技術の習得も必要と考えている。現在、そのような簡易編曲の指導についても試みつつあるところである。どのような場合でも、学生に「保育の現場で子どもたちと歌う」ことを常に意識させ、その目標に向かって学習する自覚を持てるように導いて行きたい。

文献

- 小川宜子, 妹尾美智子, 麓 洋介共編 (2008) 『保育者のためのピアノでうたえる歌曲集「こどものうた村 保育の木」』ドレミ楽譜出版社.
- 小澤和恵 (2009) 「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察—「生活の歌」と「季節の歌」について—」『埼玉純真短期大学研究論文集』2: 37-47.
- 金指初恵 (2009) 「弾き歌いに関する一考察—教育実習事前指導の観点から—」『埼玉学園大学紀要 (人間学部篇)』9: 197-205.
- 紙屋信義, 後藤みゆき (2008) 「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果—アレンジによる伴奏法を考える—」『東京未来大学研究紀要』1: 67-75.
- 厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針』平成 29 年 3 月 31 日 厚生労働省告示第 117 号.
- 小林美実編 (1975) 『保育実用書シリーズ「こどものうた 200」』チャイルド本社.
- 小林美実編 (1996) 『保育実用書シリーズ「続こどものうた 200」』チャイルド本社.
- 全国大学音楽教育学会 (2013) 『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌—唱歌童謡 140 年の歩み』音楽之友社.
- 全日本私立幼稚園連合会編 (1995) 『新版 母とおさなごの歌』全音楽譜出版社.
- ドレミ楽譜出版社編集部編 (2001) 『保育名歌 200 選』ドレミ楽譜出版社.
- 中野研也, 河野久寿 (2012) 「保育現場で必要とされる音楽能力と、幼児音楽教育との関連」『仁愛女子短期大学研究紀要』44: 71-78.
- 早川史郎編 (1992a) 『幼児の四季「春夏の歌」』エー・ティー・エヌ.
- 早川史郎編 (1992b) 『幼児の四季「秋冬の歌」』エー・ティー・エヌ.
- 林 智草 (2017) 「保育者養成校におけるピアノ実践指導の検討—弾き歌い必修課題曲の選定にむけて—」『育英短期大学幼児教育研究所紀要』15: 25-35.
- 林 智草 (2018) 「保育者養成校におけるピアノ実践指導の検討 (2)—学習記録を取り入れた授業実践と効果—」『育英短期大学幼児教育研究所紀要』16: 41-48.
- 坂東貴余子編 (2014) 『簡易伴奏による「こどもの歌ベストテン (改訂新版)」』ドレミ楽譜出版社.
- 文部科学省 (2017a) 『学校教育法』昭和 22 年 3 月 31 日 法律第 26 号 (平成 29 年 5 月 31 日施行).
- 文部科学省 (2017b) 『幼稚園教育要領』平成 29 年 3 月 31 日 文部科学省告示第 62 号.
- 松山祐士編 (1992) 『実用 こどもの歌曲 200 選』ドレミ楽譜出版社.
- 松山祐士編 (2011) 『こどものうた大百科』ドレミ楽譜出版社.

(2020 年 1 月 27 日受理)